



[農業経営部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

2. 岡山県における畦畔管理の特徴と課題

[要約]

岡山県では、自ら畦畔管理を実施している耕作者や集落は多いが、中山間地域では労働力の減少が課題となっている。畦畔管理を業者へ委託する耕作者もみられるが、管理を継続する耕作者は畦畔管理コストの低減可能な仕組みの構築を求めている。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 作物・経営研究室

[連絡先] 電話 086-955-0275

[分類] 情報

[背景・ねらい]

水田農業において、農業者の高齢化や米価の低迷に伴う収益減少によりリタイアする農家が増加しており、受け皿として個別経営体の大規模化や集落営農組織の育成、これらが連携した広域連携組織の早急な育成が求められている。しかし、水田内以外の管理作業、特に畦畔管理作業がこれらの経営体・組織の規模拡大を阻害する大きな要因であることが明らかとなっている。そこで、これらの経営体が安定的な経営を継続するために、畦畔管理の特徴と課題を整理し、今後の維持、発展に向けた支援に資する。

[成果の内容・特徴]

1. 農地の地権者（子弟を含む）が集落内に一定数存在しており、これに加えて農地の借受者や農地を持たない住民等も参加し、定期的に畦畔管理を集落内で完結しているものを「耕作者・集落等自力タイプ」、高齢等で畦畔の管理が困難となった耕作者や大規模農家が畦畔管理等を業者へ委託するものを「業者委託タイプ」として分類している（図1）。
2. 「耕作者・集落等自力タイプ」の一般的な作業体系は、自走式モーター方式と刈払機方式である。これに更なる労力軽減を図るため、一定の費用と労力が投入可能な耕作者や集落では、トラクタ用モーター方式や除草剤散布、畦畔の被覆技術であるカバープランツ、防草シートを追加している（表1）。
3. 「耕作者・集落等自力タイプ」の課題は、現在の体制を継続するための方策を早急に検討することである。高齢化により畦畔管理をできる人が少なくなることが想定されるため、耕作者は投下労働力や機械等の最適化を図り、更なる畦畔管理コストの低減可能な仕組みの構築を求めている（表1）。
4. 「業者委託タイプ」の特徴は、おおむねどの地域でも対応している業者がシルバー人材センターのみであり、一部の地域で森林組合等が作業を受託している。しかし、シルバー人材センターや森林組合も作業者の高齢化が深刻になっているため、委託者は早急な作業者の確保とこれまで通りの畦畔管理の受託を求めている（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 岡山県内で農地の保全や管理等を行っている30組織への聞き取り調査（平成28～令和元年）に基づく分析結果である。
2. 効率的な畦畔管理を検討する際に類型に示した工程や方式等が活用できる。



[具体的データ]

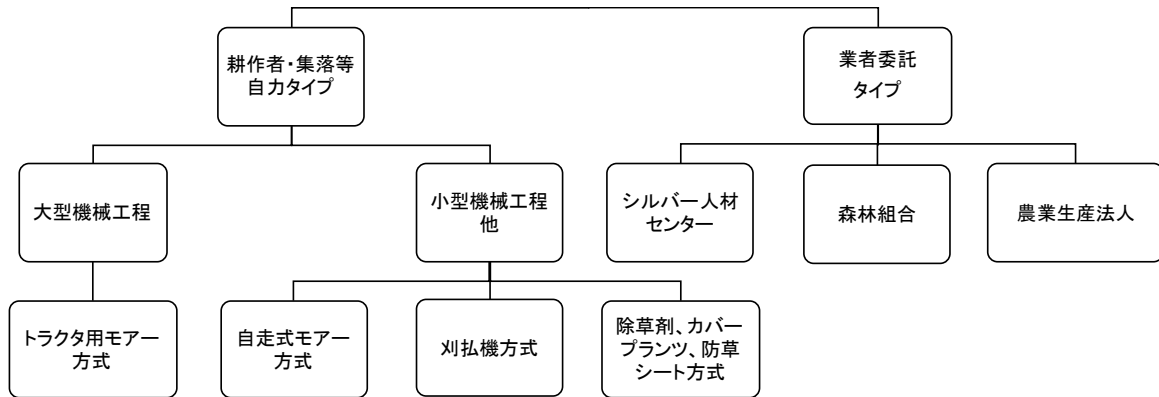


図1 岡山県における畦畔管理の類型

注）農業者、集落、組織、業者等への聞き取り調査より作成。表1も同様。

表1 岡山県における畦畔管理の特徴と課題

項目 タイプ	特徴	作業体系	課題
1. 耕作者・ 集落等自力 タイプ	- 農地の借受者や住民を含め、集落内で畦畔管理等を完結する体制 - 集落内に農地の地権者、住民が一定数居住	- 小型機械工程他（自走式モアー方式、刈払機方式） - 大型機械工程（トラクタ用モアー方式）や除草剤、カバープランツ・防草シート等の畦畔被覆技術の追加	- 現在の体制を継続するための方策の検討 - 投下する労働力や機械等の最適化
2. 業者委託 タイプ	- 畦畔管理等の業者への委託 - 集落から農地の地権者の多くが他出、もしくは地権者や住民の高齢化 - 県内の全ての地域で畦畔管理等を受託している組織はシルバー人材センターのみ	小型機械工程他（刈払機方式）	- 作業者の高齢化が深刻で、作業者の確保が急務 - これまで通りの畦畔管理の受入れ態勢の維持

[その他]

研究課題名：中山間地域農業の発展にむけた広域連携の展開方向

予算区分・研究期間：県単・平29～令元年度

研究担当者：河田員宏、井上智博

関連情報等：1）試験研究主要成果、[平30（73-74）](#)